

第63回試験研究成果発表会_作物（水稲・高温対策） 発表概要

【動画配信期間】 令和8年3月27日（金）～令和9年1月5日（火）

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 情報提供

温暖化でイネの生育はどうなっている？

—近年の高温条件下における生育をデータで振り返る—

水稲温暖化対策研究室 平井 達也

近年、地球温暖化の影響と思われる気温上昇が観察され、特に直近3年間は水稲の生育期間の気温は過去最高となりました。このため、イネの出穂期は年々早くなる傾向にあり、これまでの栽培暦による栽培管理が難しくなっています。また、イネの出穂前の生育量が多くなっており、倒伏するイネや籾数増加による玄米品質の低下が目立つようになってきています。水稲の安定生産のためには高温条件下における生育の傾向を把握し、それぞれの圃場に適した対策をとる必要があります。



倒伏したイネ



乳白粒の増加

発表2 情報提供

高温条件下における栽培管理のポイント

水稲温暖化対策研究室 中村 充明

高温条件下における水稲生産では、適期の栽培管理が一層重要です。具体的には適期の水管理・追肥・病害虫防除です。高温条件下では玄米品質が一般的に低下する傾向にありますが、中干し等で籾数過多を防ぐことにより「乳白粒」を、出穂期以降の葉色の維持により「背白粒」、「腹白粒」、「基白粒」等を低減させることができます。また、全量基肥肥料の施用は倒伏の軽減及び玄米品質の向上に効果があります。

適期の栽培管理は水稲生育予測システム「でるた™」がお勧めです。



中干しの効果が向上する溝切り

※予測した出穂期から日数を足し引きして作業適期等を計算



水稲生育予測システム「でるた™」

発表3 情報提供

千葉県主力栽培品種の高温条件下における玄米品質 —暑さに強い「ふさおとめ」を活用しよう—

水稲温暖化対策研究室 西田 暁彦

近年、登熟期間中の高温により玄米の外観品質が低下する、高温登熟障害の発生が全国的な問題となっています。そこで、千葉県主力品種の高温登熟性を調査したところ、早生品種「ふさおとめ」は玄米品質が非常に優れていることが明らかになりました。「ふさおとめ」は生産現場において定着しておりますが、改めて優れた高温登熟性を認識し、活用していただきたいと思えます。

他の主力品種については、主に籾数過多を防ぐことにより一等米に相当する品質が得られると考えられます。



高温により発生した基白粒



「ふさおとめ」の玄米